

令和元年度第2回札幌市学校給食運営委員会 議事録

I 開催日時

令和2年1月20日（月）15:00～16:35

II 開催場所

札幌市教育委員会 6階B会議室

III 出席者

1 委員 15名

辻委員長、池田（哲）委員、島貫委員、金野委員
（札幌市小学校長会4名）
高橋委員、柳澤委員
（札幌市中学校長会2名）
千葉委員、運上委員、松宮委員
（札幌市学校給食栄養士会3名）
池田（幸）委員、中野委員、阿部委員
（札幌市PTA協議会3名）
梅津委員
（札幌市学校給食会1名）
百々瀬委員
（学識経験者1名）
今野委員（臨時委員）
（調理員1名）

2 事務局 7名

木村保健給食課長、本間栄養指導担当課長、畠山給食係長、
北市給食制度担当係長、先野栄養指導担当係長、
小林栄養指導担当係員、湯谷給食係員

3 傍聴者 報道機関記者 1名

IV 欠席者

松山副委員長

V 開会

- 第1回委員会にて配布した資料のうち、平成30年度給食実施回数分布に記載の数値に誤りがあった部分について、事務局より訂正し謝罪。訂正後資料を配布した。
- 今年度最初の出席となった委員より自己紹介。

- 委員長より、議事 1 について公開とし、議事 2 以降については非公開とすることを確認。

VI 議事等

1 学校給食における食器のあり方について

【委員長から】

- 第 1 回委員会で、旭川市での PEN 樹脂食器導入への反対運動について、委員から質問があったので、事務局から説明させる。

【事務局からの説明】

- 旭川市の学校給食では、昭和 60 年に、金属製のアルマイト食器に替わり、合成樹脂のメラミン食器を導入し、その後、食事環境の改善のために、平成 14 年度より順次メラミン食器から強化磁器食器への切り替えを進めてきた。
- しかしながら、強化磁器食器は、その重さにより児童生徒・調理員の負担感が大きいこと、食器の破損による異物混入やケガのおそれがあること、磁器食器用コンテナの保管スペースの確保やコンテナ運搬に対応するための段差の解消など学校施設の改修が必要となり、メラミン食器から磁器食器への切り替えが進まなくなってきたことなど課題が顕在化してきた。
- このため、食器検討の懇話会を設置し、懇話会の意見を踏まえて、平成 29 年 7 月に、メラミン食器の早期切り替えと磁器食器の課題解消のため、PEN 食器を導入するという方針を打ち出した。
- 旭川市では、PEN 食器については、国の食品安全委員会において健康影響に関する検証、評価が行われ、厚生労働省により、食品衛生法に基づく個別の規格基準が設定されていること、原料には有害物質や添加剤を使用しておらず、国内外において PEN 食器による健康影響は報告されていないこと、他の自治体での導入実績が増えていることから、PEN 食器の導入を決定したところであった。
- これに対し、旭川市議会から、メラミン食器から PEN 食器への早期切り替えは評価するものの、強化磁器食器から PEN 食器への切り替えについては、児童生徒や保護者、調理員などからの意見聴取や検証が十分ではないとの指摘があったため、旭川市では、平成 31 年 1 月に、強化磁器食器の検証結果をとりまとめ、改めて PEN 食器を導入する方針を示している。
- PEN 食器導入に対しては、旭川市議会の一部会派や一部の市民団体が反対しており、その意見としては、発がん性物質は検出されておらず、化学物質の溶出が基準値以下だとしても、石油を原材料とするプラスチック製品は、今後、人体へどのような影響があるかわからない、また、マイクロプラスチ

ックの海洋汚染問題などから世界的にプラスチックの規制が進んでいる中で、強化磁器食器から PEN 食器に切り替えることはこの流れに逆行していることになるのではないかというものであった。

- 平成 31 年 2 月に、給食用食器として強化磁器食器の使用を求める請願が提出されたが、旭川市議会では、「強化磁器食器の安全性については理解するものの、当該食器は重く破損しやすいという課題があるのに対し、PEN 食器は、食品安全委員会が実施した食品健康影響評価及び市が独自に実施した検査において安全性が確認されているとともに、当該食器は軽く破損しにくいいため、強化磁器食器に係る課題の解消に有用である」として、この請願は不採択という決定をしている。
- 旭川市では、メラミン食器については、今年度ですべて PEN 食器に切り替えを完了させ、強化磁器食器についても、今後順次 PEN 食器に切り替えていくこととしているとのことである。

【委員長から】

- 事務局から説明のあった旭川市の状況及び学校給食における食器のあり方についての答申案の内容全体について、意見・質問があればお願いしたい。

【質疑応答】

特になし

【委員長から】

- 答申案のとおり、当委員会の答申としたい。後日、教育長へ答申書の提出を行うこととする。
- 臨時委員の今野委員はここで退席する。

2 令和 2 年度学校給食費の算定について

【委員長から】

- ここから会議を非公開とする。

[傍聴者は退席]

- 給食費の根拠となる数値の一部に未確定のものがあるため、今回は想定値をもとに議論することになる。確定値は第 3 回で提示される予定である。

<主食単価について【想定値】>

【事務局からの説明】

- 主食単価については、現時点では根拠となる食材費等の数値が未確定であるため、想定値となる。
- 札幌市では、自校炊飯、委託炊飯、パン、麺の 4 種類の主食を提供してい

る。自校炊飯とは学校で炊飯したご飯のことであり、主に味つきご飯の提供となる。委託炊飯とは、委託業者の施設にて炊飯し、学校へ配送されたご飯のことであり、白飯の提供となる。

- 自校炊飯は、原料の胚芽精米が若干値上がりしているため、単価は若干の値上がりとなる見込み。
- 委託炊飯は、原料代等の値上がりにより、単価は値上がりの見込み。
- パンは、13種類のパンの単価と各パンの使用割合に基づき平均単価を算出している。原料代等が値上がりしており、単価は値上がりの見込み。
- 麺は、4種類の麺の単価と各麺の使用割合に基づき平均単価を算出している。原料代等が値上がりしており、単価は値上がりの見込み。
- 主食の割合は、週5日のうち、自校炊飯、パン、麺を1回、委託炊飯を2回としている。
- 令和2年度の主食単価（想定値）は現行と比べ、小学校（中学年）で3.15円の値上がり、中学校で3.33円の値上がりという積算結果となっている。

【質疑応答】

特になし

<牛乳単価について>

【事務局からの説明】

- 牛乳単価は確定値となる。
- 令和2年度における牛乳の保護者負担額の決定が、昨年度と同時期の3月以降になる見込みであることから、令和2年度の牛乳単価は令和元年度の単価である44.14円（税抜）としている。
- 令和2年度の牛乳単価は、現行単価から2.05円の値上がりとなっている。

【質疑応答】

特になし

<副食単価について>

【事務局からの説明】

- 副食単価は確定値となる。
- 副食に使用する食材は主に札幌市学校給食会から調達しており、半年又は1年ごとに価格が決定される物資、月ごとに価格が決定される物資、週ごとに価格が決定される物資の三つに分類される。
- 札幌市学校給食会取扱い物資の価格動向について
 - ・ 半年又は1年ごとに価格が決定される物資には魚介類、加工品、調味料

等がある。

- ・ 月ごとに価格が決定される物資としては、鶏卵、肉類がある。鶏卵については安定して推移しており、令和元年度は値下がり傾向にある。肉類については、令和元年度は牛肉・豚肉・鶏肉いずれも値上がり傾向にある。
- ・ 週ごとに価格が決定される物資としては、青果物がある。天候などの影響を受けやすく、価格は変動しやすい。食材により傾向が異なる。

○ 副食積算の考え方

- ・ 食品群「小麦粉及びその製品類、砂糖類、豆類、豆製品類、種実類、藻類、魚介類、小魚類、乳類、油脂類、調味料、加工品」は、札幌市学校給食会の半年又は1年契約物資であり、令和元年度又は2年度の契約価格を用いている。
- ・ 肉類、卵類は、近年の価格動向を反映させるため、過去3年間の平均価格を用いている。
- ・ 青果物は、天候などの影響による価格変動を生じやすいため、過去5年間の平均価格を用いている。
- ・ 生涯を通じて健康な生活を送ることができるよう、取組みのひとつとして、各学校の教育計画に基づき、バイキング形式の選択給食を行っているが、数種類の料理から選択するため、実際の人数より多く用意する必要がある。このため、副食費の2割程度を上乗せし、実施回数を年間1回として計算した金額をバイキング加算としている。
- ・ 食中毒及びその疑いが発生した場合に、原因を究明するために必要な食材を、各校で保存する必要があることから、個数単位で提供する食品を多く含む食品群である魚介類や小魚類等について、保存食加算を設定している。
- ・ 小学校高学年の一部献立について、食材の使用量が多い。その額を年間影響額とし、小学校の副食費に加算している。加算額については高学年だけではなく、低学年及び中学年の副食の一食単価にも反映している。

○ 副食積算価格

- ・ 税抜きで、小学校は151.42円となり、現行から3.04円の値上がり、中学校は194.89円となり、5.04円の値上がりとなる。

【質疑応答】

委員	魚介類は、それぞれの魚の使用頻度も計算しているか。カラフトししゃもやいわしの開きなど、もともとの単価が安いものが値上がりしており、鮭の切り身など、もともとの単価が高いものが値下がりしている。鮭の場合は、もともとの単
----	---

	<p>価が高いので、あまり使用できず、年2、3回くらい、ししゃもの場合は毎月使うなど、使用頻度が結構違う。その辺が考慮されての値かどうか。</p>
事務局	<p>学校給食の栄養量、学校給食摂取基準を満たすための食品構成に基づいて算出しているため、その年その年の使用頻度については考慮していない。</p>
委員	<p>たくさん使うものが値上がりし、そんなに使わないものが値下がりということは、トータルで見ると、魚の場合は、示されている積算額よりも、実際に栄養士が使っている額は高くなるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>学校によって使用頻度が異なると思うので、それを反映させるのは大変難しいが、ご意見として承った。</p>

<一食単価について【想定値】>

【事務局からの説明】

- 一食単価は、主食、牛乳、副食の各単価を合計して決定している。主食単価が想定値のため、一食単価も想定値となる。
- 小学校は、低学年、中学年、高学年に分けて算出し、中学校は全学年で同じ単価を使用する。
- 主食、牛乳、副食いずれの単価も値上がりとなることから、一食単価もすべての学年で値上がりとなる。具体的には、小学校低学年では260.72円から269.49円となり8.77円の値上がり、小学校中学年では265.22円から274.13円となり8.91円の値上がり、小学校高学年では268.81円から277.81円となり9.00円の値上がり、中学校では317.22円から328.49円となり11.27円の値上がりとなる。

【質疑応答】

特になし

<年間基準実施回数について【想定値】>

【事務局からの説明】

- 令和2年度の年間基準実施回数について
 - ・ 例年、当該年度の各学校の給食実施回数を調査し、その集計結果をもとに検討を行っているが、令和元年度の給食実施回数は現在調査・集計中のため、現時点では、現行の年間基準実施回数を維持する内容としている。
- 令和3年度以降の年間基準実施回数について

- ・ 第1回委員会において、今後も年間基準実施回数を定めて全市統一の学校給食費とするか、年間基準実施回数を定めず、各学校の給食実施回数に応じた学校給食費とするか、時間をかけて議論するため、次年度も継続して審議することとなった。
- ・ このため、各団体で持ち帰り議論していただき、各団体の意見を踏まえて、今年秋に開催予定の、来年度の第1回委員会において審議を行いたいと考えているので、それに向けて各団体では議論をお願いしたい。
- ・ 各団体で議論する際の説明資料を各団体の代表者に送付済みであり、本日も配布しているので、確認をお願いしたい。

※ 説明資料では、案1「現行どおり年間基準実施回数を設定し、全市統一の学校給食費とする」、案2「各学校の給食実施回数に応じ、学校ごとに異なる学校給食費とする」について提示している。

【委員長から】

- 令和3年度以降の学校給食費における年間基準実施回数のあり方について、各団体で議論するための資料が提示されたので、その内容について意見・質問があればお願いしたい。

【質疑応答】

委員	資料には、案1と案2のメリット・デメリットの記載があるが、この内容からは、今後年間基準実施回数の取扱いを変更する必要感があまり感じられない。事務局から追加の説明等はないか。
事務局	学校給食費は全市統一であるにも関わらず、各学校で給食実施回数が異なることが不公平感に繋がるということは、当委員会でも課題として捉え、継続して議論してきたところである。
委員	年間基準実施回数を定めず、各校ごとに給食回数が変わるということは、学校給食費が学校ごとに異なるということか。
事務局	回数が異なるということであれば、学校給食費自体が各学校で異なるということになる。
委員	生活保護とか準要保護（就学援助）の支給額も変わってくるということになるか。
事務局	各学校の学校給食費に合わせた支給額になる。
委員	（就学援助を所管する）教育推進課などには了承いただけるのか。

事務局	現時点では確認していないが、基本は、必要な学校給食費の額に合わせたものになると考えている。今一度確認する。
委員	市内で転校した場合に、今は全市共通なので同じ額を集めればいいということだが、うちの学校は給食費が安いから返金する、うちの学校は給食費が高いから追加する、ということになると考えて良いか。
事務局	転校時の取扱いが煩雑になるので、ルール決めに改めてする必要があると思う。
委員	具体的にどのようなルールか。
事務局	今も3分の1ルールということで、転校時に、何日に転校したかによって金額をいくりにする、ということを取り決めているが、各学校で給食費が異なるということであれば、どういう計算でやるのが一番いいのかということで、今のままが良いのか、それとも変えた方が良いのか、議論が必要になると思う。
委員	そうなると、学校の業務がまた増えると感じる。学校給食費に関して公会計化という話もある。やるかどうかはわからないが、その際、各学校の徴収額が違うとなったときに大変にならないかという疑問がある。
事務局	公会計化についてはまた別の議論である。現状の私会計のままの学校給食費としてどうするか、議論をしていく必要があると思っている。
委員長	今、いろいろな質問が出ている。公会計化ができなくなるのではないかという話もあったが、そうしたことを各団体で洗い出していただいて、その意見をそのまま当委員会での審議に持ってきていただいても良いと思う。資料にはメリット、デメリットも一応の想定で書いているが、これが全てではない。そこを見越して各団体で合意意見を伺っていきたい。
委員	各団体で案2が良いというふうになったら、案2で決定なのか、それともただ意見を取るだけなのか。意見を取ったは良いが、意見はいつでも良いというふうにならないか。
事務局	全ての団体で案1にそろえば、そういう方向性に行くと思うが、団体によって、案1なのか案2なのかということで割れるようであれば、それを踏まえて、この委員会でどちらが

	良いのかという議論をして、結論を出す形になると思う。
委員	この委員会で、案1か案2か決められず困っているので、団体に意見を聞いて、というのならわかるが、この委員会でもはっきりとわからないことを聞いてどうするのが見えない。意見を取ることは良いが、それを今後どういうふうに活かしていくのかが見えないので、そこを教えていただきたい。
事務局	各団体の意見を踏まえて、この委員会で議論をして方向を決めたいと考えているので、そういう意味合いで、各団体でご議論いただきたい。
委員	議論はしたいが、わからないことがいっぱい出てくるのではないかと懸念している。例えば、学校ごとに徴収額が変わってきたときに、年間基準実施回数はなくなるのか。いろいろな単価を出すにしても何にしても、今、年間基準実施回数をもとにして全ての話が進んでいるが、それは崩れないのか。
事務局	過去の実際の給食実施回数の平均値から年間基準実施回数を導いているので、年間基準実施回数が無くなったとしても、そういった数値を目安として示すことは可能である。 今の学校給食費は、「一食単価×回数」で年額を出しており、その回数を年間基準実施回数ということで決めている。学校ごとに実際の回数にはバラつきがあって、多いところと少ないところがある。毎年、年間基準実施回数に近づけていただくように学校には周知しているところだが、そのバラつきがなかなか近づいていかない現状にあるということで、果たして今後も年間基準実施回数を決めていくべきなのか、それとも、何らかの目安は示すとしても、各学校の実際の給食実施回数に合わせた学校給食費にするのか、今一度ご議論いただきたい。
委員	年間基準実施回数が無くなっても、学校給食費を決めることはできるということで理解した。
委員	団体に持ち帰って議論するとき、おそらく多くの人が疑問に思うのは、同じカリキュラムのはずなのに、なぜ学校によって18回も給食実施回数が違うのかというところ。おそらく、校外学習に行った後で食べる食べないの判断で変わって

	<p>いるのだと思うが、それによって18回も違うのだという説明で間違いないか。</p>
委員	<p>学校の立地状況によって、例えば地下鉄とかJRの近くの学校と、定山溪の奥の学校とでは全く回数が違ってくる。</p>
委員	<p>学校給食費はどこの学校でも同じだが、回数が違うということは、メニューの内容、一食当たりの単価が違うという理解でよろしいか。</p>
事務局	<p>その解釈で間違いない。</p>
委員	<p>仮に案2になったとして、学校の判断で、今よりさらに給食の回数のバラつきが出ないのか心配である。バラついたから悪いのか、という議論もあると思うが、団体での議論の際にはその話もしなければならぬと思っている。</p> <p>学校長の判断で校外学習等々があったときに、うちの学校は給食を出さない、でも、隣の学校では極力出す、といったときに、今は18回で済んでいる回数の差がさらに広がらないかという懸念がある。</p>
事務局	<p>確かに、バラつきがさらに広がる可能性もある。もし案2になったとしても、何らかの目安となる数値を示して、この範囲内で収まるようにということが、どこまでできるかわからないが、全く何の基準もなしに、ということにはならないと思っている。</p>
委員	<p>給食の実施回数がある程度目安として示されているということは、やりたい学習の足かせになっているということはあるのか。本当は食べさせたくないのに、食べる機会を作ったりという支障は出ていないか。</p>
委員	<p>中学校に関しては、それはない。親学校と子学校の関係でいろいろな調整が必要になることはあるが、回数自体が学校の教育課程に大きな影響を与えるということはないと考えている。</p>
委員	<p>小学校に関しては、基本は、給食の数によって学習内容を変えられることはあまり考えないようにするが、年間基準実施回数と言われているので、それに近づけるように、学校に戻ってから食べたり、お弁当をもってその場で食べてきたり、非常に工夫している学校があって、できるだけ年間基準実施回数にそろえていこうとして動いている。</p>

委員	<p>回数が少ない学校は年間基準実施回数があつて良い、回数が多い学校は学校ごとに徴収できたら良いと、思っているかもしれない。基準は基準としてあつて良いが、例えば、うちの学校が3回多いとなったら、その3回分をどうにか徴収するような、複合的な方法もあつても良いという意見も聞いたことがある。</p> <p>このように、案1、案2に当てはまらない意見が出てきた場合には、どのようにまとめたら良いか。また、時間はいただけるか。</p>
事務局	<p>時期としては、今年の秋に開催予定の、次年度の第1回会議で審議をしたいと思っているので、それまで時間はある。</p> <p>資料では、案1、案2の二つを示しているが、これに当てはまらない別の案があつたり、どちらかにまとめることが難しいということであれば、その状況について、この委員会でご説明いただいて、一つのご意見という形でいただければと思う。</p>
委員	<p>P T A協議会は保護者の団体なので、学校側の運営に関してどこまでわかるかというのは、かなり難しい。個人的には、案2の場合は、各学校で実施回数を計算して、給食費の金額を算定して、それを取りまとめるというのは大変だと思うが、そういうのは度外視して考えてしまつて良いのか。</p>
事務局	<p>それぞれの団体、P T A協議会であれば保護者の立場として率直なご意見をいただければと思う。</p>
委員	<p>各政令市の状況を見ると、案2の方が主流と捉えて良いのか。</p>
事務局	<p>資料記載のとおり、多くなっている。(年間基準実施回数を定めず、学校ごとに学校給食費が異なるのは、20政令市中、小学校で13市、中学校で14市)。</p>
委員	<p>もしわかったらお聞きしたかったのが、政令市20市の時代の流れというか、どちらの方に数字が寄ってきているのか。何かがあつて変えていったという過去のほかの都市の経験も踏まえる必要性があると思った。</p>
事務局	<p>現時点では情報を得ていないので、今後お示しできるのであれば、お示ししたい。</p>
委員	<p>今のご意見にプラスして、札幌市のように親子給食の都市</p>

	と、センター式の都市に分かれると思う。それによっても状況が変わってくると思うので、調べる機会があれば一緒にお願ひしたい。
事務局	承知した。

【委員長から】

- 令和3年度以降、年間基準実施回数についてどうするか、各団体に持ち帰って議論をお願いしたい。今年の秋の当委員会が始まるあたりまでにご検討をお願いしたい。
- 令和2年度の年間基準実施回数については、現在、令和元年度の給食実施回数調査の集計中のため、具体的な審議は次回の第3回委員会で行いたいが、現時点で意見・質問があればお願いしたい。

【質疑応答】

委員	ある区での聞き取りでは、来年度の給食実施回数が、多くの学校で1～9回増えると聞いている。暦の影響かもしれないが、現時点での調査結果はどのようなになっているのか？
事務局	現在集計中のため、第3回で示したい。
委員長	今年度は10連休などがあったが、次年度はそういうことはないのでは、実際は違っていくと思う。現在の年間基準実施回数を定める方式によるなら、どうしても平均した回数を考えていかなければならなくて、年度ごとにころころ変えることにもならない部分もある。事務局には、数値についてはしっかり調べたうえで提案していただきたい。
委員	数年前から、小学校では始業式、終業式にも給食が出るようになって、回数が増えたということもあるだろう。以前だと家庭訪問の日は午前授業になっていたが、今は、給食を出して、5時間目が終わってから家庭訪問をやる学校がほとんどだと思う。 あとは、先ほどの話題になるが、いろいろなご意見を持っている方がいるので、その方たちへうまく説明するためには、学校としては基準があってくれた方が良いと思う。では何回が良いのか、というのは非常に難しいとも思う。
委員	なぜ年間基準実施回数で学校給食費を集金するという流れが出てきたのか。最初からこうなのか、何かあって年間基準実施回数で全市統一するようになったのか、そこの経緯を教えてください。

事務局	今は手持ちの資料がないので、次回、調べてわかる範囲で説明したい。
-----	----------------------------------

<令和2年度の学校給食費について【想定値】>

【事務局からの説明】

- 主食単価と年間基準実施回数が想定値のため、提示する令和2年度の学校給食費についても想定値となる。
- 給食費年額
 - ・ 給食費の積算は、一食単価×年間基準実施回数で算定するが、学校経理事務の効率化等の観点から、単位を50円単位とし、10の位を50円単位で切り捨てて年額を算定している。小学3年生であれば一食単価274.13円×年間基準実施回数196回で、53,729円となるが、50円単位に直すと、53,700円となる。
 - ・ 年額は、小学校で1,750円、中学校で2,000円～2,150円の増加となっている。
- 給食費月額
 - ・ 学校経理事務の効率化等の観点から、4月から翌年2月までの11か月は同額とし、残額を3月分としている。中学3年生については、3月分は徴収せず、その分を2月分に上乗せしている。
 - ・ 4月から翌年2月までの月額は、小学校では全学年で150円の増加で4,500円、中学校では全学年で200円の増加で5,200円という積算結果となっている。
- 過去の推移
 - ・ 平成20年度以降、月額100円～350円の値上げを実施している。
 - ・ 平成30年度は、小学校で月額350円、中学校で月額300円の値上げをしており、平成20年度以降で最大の値上げ幅となっている。
 - ・ 昨年度の当委員会では、月額で50円の値上がりとなる積算結果となっていたが、前年に大規模な値上げを実施していることや、過去に月額50円単位の値上げは行っていないなどの理由から、審議の結果、値上げせず据え置くこととなった。

【委員長から】

- 想定値の積算では、令和2年度の学校給食費については、月額で小学校150円、中学校200円の増額という積算結果となっている。これを踏まえ、委員の意見をお願いしたい。

【質疑応答】

委員	<p>みんなが丸く、というのはなかなか難しいが、献立を立てる者も、給食費を出すPTAの立場でもいろいろ行事を考えている学校としても、みんなが、これで仕方ないね、となるのが一番良いと思っている。</p> <p>さきほどの話では、もしかしたら給食実施回数が大幅に増えて、金額についても想定値をさらに上回るなんてことがあるかもしれないので、それも踏まえてもう一度考えなければいけないと思っている。</p>
委員	<p>想定値を見ると、結構値上がりになるのだな、というのが正直な感想。回数の問題で、もっと上がるかもしれない。</p> <p>令和3年度には年間基準実施回数をなくして、学校ごとに異なる学校給食費にするか、という先ほどの議論もある。回数が少なくて学校給食費が安くなる学校は良いが、回数が増えて学校給食費が上がる学校は、保護者の立場として、こんなに上がるのか、ということもあるかと思う。これまでのように回数の振れ幅がなくなることで、献立の作成や食材の調達もシビアになってしまう。年間基準実施回数がなくなるのはかなり大きな問題で、大変だと思うので、時間的に余裕をもって結論を出す必要があると思う。</p>
委員	<p>回数の違いや、納入率によっても、栄養士は苦勞されていると感じている。学校の説明責任もあるので、回数についてはさらに考えていかなければいけないと思った。</p> <p>質の良い給食を提供するには、必要な分の経費として学校給食費を上げていくのは仕方のないことだと思った。</p>
委員	<p>献立を立てる上で、価格が少しずつ値上がりしていると感じている。今もぎりぎりで行っているが、子どもたちに必要な栄養を満足する量の給食にしたいと思っている。現行の学校給食費では来年度はちょっと不安だという思いがあるので、ぜひ考えていただきたい。</p> <p>年間基準実施回数については、今後、団体内で意見を求めていきたい。</p>

【委員長から】

- まだ年間基準実施回数や単価が確定していないが、次年度は値上げでやむを得ないという方向で、次回示される確定値をもとに、どの程度値上げすべきか審議したい。

3 その他

【委員から】

学校給食における食器のあり方について	
委員	前回食器を変えた当時は、給食に関する様々な事項について包括的に見直す中での一つとして、食器の変更があった。今回は食器のみの変更になるか。
事務局	食器のみの変更が基本である。食器に付随する食器籠等の変更もあわせて検討する可能性はある。
委員	来年度はもうだめだろうと思うが、再来年度、それ以降に予算を要求していくのか。
事務局	答申が決まれば、それをもとに、来年度は実際に仕様をどうするかを決め、実際に学校現場で試行したうえで、その次年度あたりから、どのように導入していくか具体的な検討をしていくことになると思う。
委員	樹脂食器は単価が結構高いので、お金をかけるときに、重さやマナーの問題云々だけで勝負できるかなという心配があった。その辺も考えていただければと思う。

【事務局からの説明】

- 第3回委員会は、2月14日（金）午前9時より開催する。正式な開催通知は後日送付する。
- 第3回委員会において審議が完結しない場合には、第4回委員会を2月25日（火）午前9時より開催する。

VII 閉会